

# NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2012年10月20日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。  
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2011000019"/> 整理番号 <input type="text" value="11591"/> 担当者 <input type="text" value="小野 洋一"/>
表 題	<input type="text" value="新規チオセロオリゴ糖の合成法とそれを用いたセルラーゼの活性・機能の解析"/>
技術分野	<input type="text" value="食品・バイオ"/> <input type="text" value="化学・薬品"/>
適用製品	<input type="text" value="食品・バイオ用酵素剤、化学・医薬品合成"/>
目 的	<input type="text" value="従来セルロース分解酵素(セルラーゼ)、特にその主要成分であるセロビオヒドロラーゼI及びIIの活性を分別測定できる基質がなく、従って、酵素活性の制御やセルロース糖化分解の最適条件の設定ができず、本酵素を用いたバイオマス・食品利用上の大きな隘路となっていた。そこで、新たにチオセロオリゴ糖類の合成法を開発し、これを用いることでセルラーゼの分別活性測定が可能となり、本問題を解決した。"/>
技術概要	<input type="text" value="セロビオヒドロラーゼI及びIIの反応特異性を考慮して、基質となるセロオリゴ糖の特定部位のグリコシル-O結合を、チオグリコシル-S結合に置換したセロオリゴ糖を新規に合成した。"/> <input type="text" value="その一般的な化学式は、X1-O-G1-S-G2-O-X2で表され、G1、G2の少なくとも一方はセロビオース残基、残りは単糖、またはオリゴ糖残基を示す。また、X1、X2はそれぞれ水素、単糖またはオリゴ糖残基を示す。Oは酸素原子、Sは硫黄原子である。セルラーゼはXとGがOを挟んで結合している部位を切断することができるが、Sを挟んで結合している部位は切断できない。この物質を基質として使用すると、セロビオヒドロラーゼIはX1とG1の間、セロビオヒドロラーゼIIはG2とX2の間のみ切断可能なため、反応後の分解産物がIとII異なる。このようにして、セロビオヒドロラーゼI及びIIの分別酵素活性測定や反応特性が簡便かつ迅速に行うことができる。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp